

新規事業採択時評価結果（平成19年度新規事業化箇所）

担当課：道路局国道・防災課
担当課長名：木村 昌司

事業の概要

事業名	一般国道473号 相良バイパス	事業区分	一般国道	事業主体	静岡県
起終点	起点：静岡県 牧之原市 東萩間 終点：静岡県 牧之原市 大沢	延長	5.5 km		
<p>事業概要</p> <p>「金谷御前崎連絡道路」は、富士山静岡空港や重要港湾御前崎港などの拠点施設と、第二東名自動車道・国道1号・東名高速道路などの幹線道路網を南北に接続し、空港港湾アクセスネットワークを形成する延長約30kmの地域高規格道路である。</p> <p>一般国道473号は、愛知県蒲郡市を起点とし、静岡県牧之原市に至る延長約150km（うち静岡県内延長約75km）の幹線道路である。</p> <p>一般国道473号「相良バイパス」は金谷御前崎連絡道路の一部となる牧之原市東萩間から同市大沢に至る延長5.5kmの2車線道路であり、高速ネットワークへのアクセス向上を担う重要な路線である。</p> <p>事業の目的、必要性</p> <p>一般国道473号「相良バイパス」は、地域高規格道路「金谷御前崎連絡道路」の一部を構成し、並行する現道473号の国際コンテナ通行支障区間を解消し、国際物流基幹ネットワークの構築を推進するとともに、牧之原市街地の渋滞の解消を図り、物流拠点（御前崎港・富士山静岡空港）へのアクセスを強化し、地域の活性化に大きく寄与するものである。「相良バイパス」の前後では、一般国道150号「南遠道路」、一般国道473号「金谷相良道路」として、地域高規格道路の整備が進められている。</p> <p>全体事業費 117.0億円 計画交通量 12,000台/日</p> <p>事業概要図</p>					

事業評価結果

費用対便益	B/C	2.9	総費用：153億円 （事業費：144億円 維持管理費：9億円）	総便益：450億円 （走行時間縮減便益：388億円 走行費用減少便益：37億円 交通事故減少便益：25億円）	基準年 平成18年	
	感度分析の結果	交通量変動	B/C= - (交通量 - %)	B/C= - (交通量 - %)		
		事業費変動	B/C= - (事業費 - %)	B/C= - (事業費 - %)		
		事業期間変動	B/C= - (事業期間 - %)	B/C= - (事業期間 - %)		
事業の影響	評価項目	評価	根拠			
	自動車や歩行者への影響	渋滞対策	◎	渋滞損失時間の高い区間の渋滞を解消する 【1kmあたり渋滞損失時間】 11.4万人時/年km（菅山入口交差点～一般国道150号波津交差点） （静岡県平均値：2.7万人時/年km（約4.2倍）） （静岡県管理道路上位2割値：7.1万人時/年km（約1.6倍）） 【主要渋滞ポイント】 1箇所：菅山入口交差点（最大渋滞長500m）		
		事故対策	-	【死傷事故率】 197.9件/億台和（H14～H16平均）		
	歩行空間	-	注目すべき影響はない			
	社会全体への影響	住民生活	◎	富士山静岡空港（第3種空港）へのアクセス向上		
		地域経済	◎	国際コンテナ通行支障区間の解消、重要港湾御前崎港へのアクセス向上（富士山静岡空港～御前崎港：58分→44分）		
災害		○	第1次緊急輸送路として指定されている現道の代替機能			
環境		○	CO2排出量削減効果 1,151 t-CO2/年（現道：660 t-CO2/年）			
	地域社会	○	観光地（中東遠地域）へのアクセス向上			
事業実施環境		○	地域高規格道路 調査区間指定（平成16年3月） 整備区間指定（平成18年度中予定）			

関係する地方公共団体等の意見

陸・海・空の交通網を結ぶ地域高規格道路「金谷御前崎連絡道路」は「富士山静岡空港」を生かした静岡県の玄関口としての地域づくりのために欠くことのできない道路であり、牧之原市より一般国道473号相良バイパスの整備促進要望（平成18年7月）を受けている。

事業採択の前提条件

費用対便益：便益が費用を上回っている。

採択の理由

費用便益比が2.9と便益が費用を上回っており、事業採択の前提条件が確認できる。
 また、並行する現道473号の国際コンテナ通行支障区間を解消し国際物流基幹ネットワークの構築を推進するとともに、牧之原市街地の渋滞の解消を図り、物流拠点（御前崎港、富士山静岡空港）へのアクセスを強化し、地域の活性化に大きく寄与することから、事業効果は高いと判断できる。
 以上より、本事業を採択した。

※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。